

2018年度 特別重点研究助成実施状況報告書

2019年 4月 5日

学長 殿

研究	所属・職	三遠南信地域連携研究センター・センター長
代表者	氏名	戸田 敏行

研究課題	スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究
研究の中心となる研究所	三遠南信地域連携研究センター
<p>研究実施状況の概要</p> <p>研究成果の公表、学内・学外機関による評価の実施、外部資金獲得への取り組み状況等についても記述してください。</p> <p>2018年度は、本研究の主体となる三遠南信地域連携研究センターにおいて、6年間継続してきた共同利用・共同研究拠点事業「越境地域政策研究拠点」の最終年度にあったこと、また、本研究の申請書段階からの副次的な目標である私立大学研究ブランディング事業への応募など研究環境の変化が大きく、特別重点研究の実施・達成において、当初目標を下回るものであったことは否めない。こうした状況を踏まえて、2019年度はより充実した研究成果を生みたいと考えている。具体的な研究実施状況、研究成果の公表、外部資金獲得については、以下の通りである。</p> <p>1.研究実施状況</p> <p>研究実施状況については、2018年度年次報告書に内容を取り纏めている。</p> <p>①全体事業の進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議としては総合会議を2回開催し、コア横断的な研究進捗を共有した。 ・エリアマネジメントの事例調査として、大都市型として大阪グランフロント、東京淡路地区ワテラス、地方都市型として飯田市の都市開発を視察した。 <p>②個別研究の進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細は、年次報告書に記しているが、初年度ということもあり文献収集やデータ購入に向けた基盤的な整備がなされている。 <p>2.研究成果の公表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は、本センターで実施してきた越境地域政策フォーラムの分科会に「リニアと越境地域整備」を取り上げて研究会を実施した。まだ本研究の成果に至っていないが、これまでに蓄積してきた研究内容の共有として、本研究の対象である笹島地区、先行するエリアマネジメント、東海道新幹線関連、事業継承についての報告を行った。 <p>3.外部資金獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度私立大学研究ブランディング事業に『越境地域マネジメント研究』を通じて縮減する社会に持続性を生み出す大学』をテーマとする申請を行い選定となった。申請書段階（別紙3）で本研究とブランディング事業の一体を検討していたが、ブランディング事業の発表が2019年2月末となったために、研究の連動が取り難い状況となった。2019年度は、両事業の密接な連携を図りたい。 	